

逗子市議会議員

さぎさか ゆうじ 活動レポート vol. 5 2



■さぎさか ゆうじ(匂坂祐二) プロフィール■

1970年2月14日生まれ A型 53歳 逗子市沼間1-8-2

略歴：沼間小卒業・逗子中卒業・私立横浜商工高等学校卒業（有）匂坂豊店入社

逗子市商工会青年部長・逗子葉山青年会議所理事長・逗子ロータリークラブ会長

沼間小PTA会長・逗子中PTA会長・市PTA連絡協議会会長・県PTA執行役員

逗子市消防団員・逗子ポイントカード事業協同組合副理事長・逗葉建設組合副組合長

家族構成：妻と長女 次女(大学生) 長男(高校生)

議会職歴：副議長・総務常任委員長・教育民生常任委員長・議会運営委員長

監査委員・予算特別委員長・決算特別委員長・基地対策特別委員長

現在 4期目 所属会派 市政クラブ

令和5年第4回定例会報告

第4回定例会が11月30日～12月14日に行われました。今定例会では、逗子市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正について、逗子市総合計画審議会条例の一部改正について、逗子市職員給与条例等の一部改正について、逗子市職員給与条例及び逗子市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について、逗子市市税条例の一部改正について、逗子市放課後児童クラブ条例の一部改正について、逗子市社会教育委員条例の一部改正について、逗子市火災予防条例の一部改正について、逗子市デイサービスセンター条例の廃止について、逗子市国民健康保険条例の一部改正について、令和5年度の一般会計補正予算及び3特別会計補正予算、令和5年度 逗子市下水道事業会計補正予算、すべての議案が可決されました。その他に陳情が審議されました。今定例会では、13人の議員が一般質問を行いました。私は、DX推進、公有地の活用、東逗子駅前用地活用事業、キャリア教育、支援環境の充実、教員の働き方改革、中学校給食について、市長及び教育長に質問をしました。※一般質問の一部を記載します。

公有地の有効活用～多様な活用の検討を～

問 本市においては、活用方針が決まっていない公有地が多く散見されます。公有地の活用については、財政的観点からも、方針が決まっていない公有地については、検討すべきと考えますが、市長の見解を伺う。また、市役所横の公有地の一時活用の可能性はどうか。

答 (市長・総務部長)

公有地の活用方針は、公共施設の建設や移転の案に適した公有地を抽出し、その都度検討していく。市役所横の土地は、元々は庁舎の用地として取得された。現状は、一部を買物客用の駐輪場やシェアサイクルのポート、以前は庁舎改修の際、臨時駐輪場として使用したこともある。過去に施設の設置案があったが、現在は具体的な活用方針は定まっていない。動きがあれば、適宜対応していく。

市役所横の公有地



自治体DX推進～生成AIの活用は～児童・生徒の支援環境の充実に向けて

問

生成AI、ビジネスでの活用が徐々に見られる中、全国の自治体においても、業務への活用を検討や検証を始める動きが見られるようになりました。市の業務等における生成AIの活用について、どのように考えるか。

答（市長）

生成AIは、希望のあった課を対象に試験的に利用した。結果は、作業効率が上がったという声がある一方で、回答内容が正しいか確認するため、作業時間が増えたという意見もあった。生成AIは、様々なサービスが展開され始めており、どのサービスを利用すべきか情報収集等に努め、慎重に判断したい。経験した中では、質問の仕方によって、答えが違うことがあったため、質問する側のスキルアップも重要と感じている。

問

支援が必要な児童、生徒が多様化し、増加傾向にある状況化で、教員、専門員等が足りない状況だと考えますが、支援環境の充実に向けて、現在の取り組みについてお聞きします。また、勉強はしたいが、集団が苦手な子どもや、教室にいられない子ども達に対して、学校内の居場所づくりも必要だと考えるが、そうした環境を各学校で整えているのか。

答（教育長）

教育相談コーディネーターを中心としました校内体制を構築しまして、支援を行っている。今年度、沼間中学校内にモデル的に居場所としての環境を整備した。効果が上がっていることから、今後、順次他の学校へも広げていきたいと考えている。

地域公共交通の充実に向けて～茨城県境町視察報告～

茨城県境町は、鉄道路線がなく自動車地域住民の交通手段を支えています。路線バスはあるものの地域内の公共交通インフラが弱く、住民の高齢化が進んでも自動車を利用しないと移動手段がありません。境町は人口約2万4000人の小さな町ながら、2020年11月に自動運転バスを実用化。自治体が自動運転バスを公道で定常運行するのは、国内で初めてです。運行体制の構築業務はソフトバンクの子会社であるBOLDLYが受託し、運行管理はセネックが受託しています。3台の自動運転バスがあり、往復で2台稼働し1台はメンテナンスをローテーションして運行しています。5年間の運行に必要な経費5.2億円で、財源は、国の補助金(半分)とふるさと納税等で賄っています。町内の医療施設や郵便局、学校、銀行など、をつなぐ2ルートで1日20便。乗車人数は10人、利用料金は無料です。本市にとってより良い地域公共交通を模索していきたいと考えます。



皆様の声を聞かせて下さい。
市政に対するご意見、ご要望をお待ちしています。

御名前

御住所

連絡先